

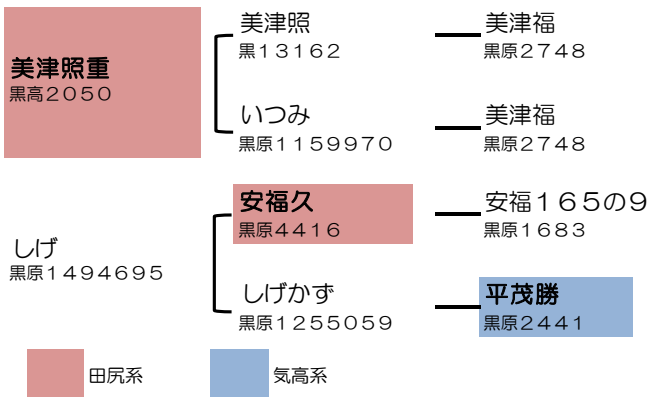
熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2024

みつふくひさ

黒毛和種種雄牛「美津福久」の選抜



問 研究のねらいは？

答 全国に通用する優良な県産種雄牛の作出が期待されており、牛肉の生産性・品質向上を図るため、優秀な種雄牛を選抜しました。

問 本牛の特徴は？

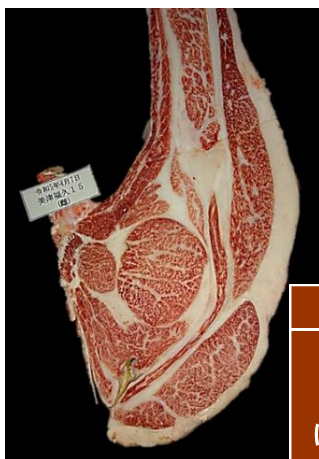
答 本牛は、現場後代検定において、特に雌牛産子の成績に優れ、ロース芯面積が68.8cm²、歩留基準値が75.6といずれも歴代最高の成績です。また、脂肪交雑でも雌のBMSNo.が10.5、全体平均で9.1と歴代最高の成績であり、特に肉質の改良への貢献が期待されます。

【現場後代検定成績】

(単位:kg、cm²、cm)

頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばらの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMSNo.	肉質等級(4等級以上)
去勢 9 頭	28.4	483.1	62.4	7.3	2.1	74.4	8.1	88.9% (8/9)
雌 6 頭	29.2	480.8	68.8	8.1	2.4	75.6	10.5	100.0% (6/6)

【産子の枝肉】



性別	雌
枝重	496.2kg
ロース	70cm ²
ばら厚	8.2cm
BMSNo.	12
等級	A-5

形質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	0.71
ロース芯面積	小さい							大きい	2.03
ばらの厚さ	薄い							厚い	0.42
皮下脂肪	厚い							薄い	0.47
脂肪交雑	少ない							多い	3.08

標準化育種価 (SBV) とは？

各形質の育種価を同スケール上で比較したもの。値が+1以上の場合、改良効果が高い。

畜産研究所 生産基礎技術研究室